

## 男女共同参画社会をつくる ～男女共同参画に関するQ&A～

Q90 平成26年の「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」発足時から応援して頂いて、9年を経過した今、「男性リーダーによる女性活躍推進への想いと取組」を教えてください。

A90 「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」(以下「男性リーダーの会」)は、現在約270名の企業の社長や地方自治体の首長等に御参加いただき、取組の共有や意見交換を行っています。2021年度より各地域企業の男性リーダーへと本会のネットワークを拡げることを目的に、地域シンポジウムを開催しています。2022年度は、①秋田県 ②愛知県と共催で開催し、当日は、各地域企業の代表や社長をはじめ多くの方に御参加いただきました。

「男性リーダーの会」発足時のメンバーである、①カルビー株式会社伊藤社長(秋田県)と②サイボウズ株式会社青野社長(愛知県)より、「男性リーダーによる女性活躍推進への想いと取組」をテーマに、講演いただきました。

### 秋 田 県

①伊藤秀二氏 カルビー株式会社

代表取締役社長兼CEO

「社員の男女比率＝管理職における男女比率」があるべき姿であるという想いの下、女性活躍を進めてきたこと、そして、一番大事なものは、組織トップ

### 愛 知 県

②青野慶久氏 サイボウズ株式会社

代表取締役社長

平成17年に離職率が上昇したことをきっかけに働き方の多様化に取り組み始めたこと、そして「100人100通りの働き方」をスローガンに、公

が「女性活躍を進める」という強い意志を持ち、「なぜ女性活躍を進めるのか」「なぜ進めなければならないのか」をトップ自身が納得しなければ絶対に進まない、という熱い想いをお話しいただきました。

また、女性活躍のためには働き方改革が重要であるが、その際、女性のためだけでなく、男性も含めた働く人全てのための改革として進めることが、非常に大きなポイントである旨をお伝えいただきました。

そのうえで、女性の活躍だけでなく社員全員の活躍を目指すことが、結果として女性管理職の増加につながり、個人の力の集結が企業の成長へとつながることを御説明いただきました。

野田聖子

内閣府特命担当大臣（男女共同参画）女性活躍担当大臣

開会にあたり、全国各地に男女共同参画の裾野を広げ、若い女性のがのびのびと力を発揮し、若い男性とともに活躍できるような地域を作っていくことが、地方創生と少子化対策にとっての鍵となることについて述べました。

平性よりも個性を重んじることで、一人ひとりの幸福と生産性を追求してきたことをお話しいただきました。

また、働き方改革によって生じた時間の制約という問題に対し、個人戦ではなくチーム戦という考えの下、社員同士の連携プレーを可能とする制度づくり等、具体的な取組を進めてきたことを御紹介いただきました。

最後に、世界における日本のジェンダー・ギャップ指数の低さ、特に「政治」・「経済」分野での遅れを指摘したうえで、日本の今の現状は「年上の男性に権限を集中させる支配的な文化」が根強いことに起因しており、このような文化からの脱却が、女性や若者たちの活躍を促し、幸福度と生産性の高い社会づくりにつながる旨を訴えていただきました。

また、視聴いただいている企業経営者へもこの認識を共有するとともに、「男性リーダーの会」への参加と、本シンポジウムで得られる女性活躍の好事例を組織へ持ち帰り、地域における女性活躍を加速していただくよう呼びかけました。

### ～シンポジウム参加者の声～

#### 基調講演

- 今までの「オッサン文化」ではなく、女性・若者文化が今後の企業の柱になることが、成長する企業への一つの鍵だと強く感じた。
- トップが強い意志を持ち、働く人のために改革を行っていかないと進まない、というお話に大変心を打たれた。何のために女性活躍を推進しているのか、女性活躍自体が目的化していることはないか、今一度考えて自社の推進を行っていききたいと深く感じた。

#### パネルディスカッション

- 今までの考え方ではいけない、そう思うトップがいれば変わるということが伝わった。若い女性を引き留めるために環境を整える、言葉だけではあまりいい印象にはならないが、それが必要なことなのだと、聞いていて思った。
- 女性活躍推進は手段であって目的ではない、目指すべきは地域の価値を高めること、という言葉に合点がいった。